

研究内容

2 言語活動の充実

指導内容系統一覧表（話し合い活動を通して自分の考えを深めることができる力）

学年		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
育てたい力		話し合い活動を通して自分の考えを深めることができる力								
重点指導目標		互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。			互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う。		互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的・建設的に話し合い、自分の考えを深める。		課題解決に向けて話し合い、互いの考えを尊重しながら深め合う。	
話し合う力		経験したことを報告したり、それらを聞いて感想を述べたりする。	話題に沿って話し合い、質問したり考えを述べたりする。	司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿ってグループで話し合い、考えをまとめる。	司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って学級全体で話し合い、考えをまとめる。	自分の考えをまとめ、立場や意図をはっきりさせながら討論する。	互いの立場や意図をはっきりさせながら討論する。	異なる立場の相手と話し合うことを通して、自分の考えを深めながら討論する。	目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げる。	課題解決に向けて互いの意見を生かし、自分の考えを深める。
身に付けておきたい力	話題や取材	●身近なことや経験したことから話題を決め、必要な事柄を思い出す。			●必要な言葉を調べ、要点をメモする。		●収集した知識や情報を比較したり、関連のあることをまとめたり分類する。		●話し合いの材料を多様な方法で集め整理する。	
	話す	●順序に沿って事柄を話す。 ●丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話す。			●理由や事例を挙げながら筋道を立てて話す。 ●相手や目的に応じて丁寧な言葉で話す。		●事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫する。 ●事実と感想、意見を区別し、結論付けを明確にして話す。		●論理的な構成や展開を話す。 ●根拠となる資料や情報を効果的に活用し、話す。	
	聞く	●話し手の方に顔を向けて最後まで聞く。 ●話の内容に関心をもち、頷いたりしながら聞く。			●話の中心に気を付けて聞く。 ●メモを取りながら聞く。		●話し手の意図をとらえ、自分の意見と比べながら聞く。 ●必要に応じて質問をする。		●論理的な構成や展開を考えて聞く。 ●異なる立場の意見を尊重しながら聞く。	
	考えをまとめる	●分からないことや詳しく聞きたいことを尋ねたり、それに答えたりする。			●聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点を質問したり、意見を述べたりする。 ●互いの話を聞き共通点や相違点を整理する。		●共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめる。		●異なる立場や考えを想定して、自分の経験や知識をもとに考えをまとめる。	
話し合いの形態	単元	「おはなし きいて」 「これは、なんでしょう」	「みんなできめよう」	話し合って決めよう 「わたしたちの学校行事」	「よりよい学級会にしよう」 「聞き取りメモの工夫」 公開授業	「豊かな言葉の使い手になるためには」 自分の考えをもち、討論しよう 「ゆるやかにつながるインターネット」	「学級討論会をしよう」 公開授業	「討論ゲームをしよう」	「ポスターセッションをしよう」 「パネルディスカッションをしよう」 公開授業	「パネルディスカッションをしよう」
	形態	小集団(2～4名)	小集団(4名)	小集団(4～6名) ・司会・提案を立てる	学級全体 ・司会グループ ・参加者	グループ(討論) ・司会2名 ・討論者4～8名	学級全体(ディベート形式)	小集団(5～6名)	小集団(5～6名)から全体へ ・司会2名 ・パネリスト2名ずつ	小集団(5～6名) ・司会2～3名 ・パネリスト3～4名
言語活動		説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べる。			説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べる。		資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をする。		資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて論理的に助言や提案をする。	
他教科にも生きる話し合い活動		ペ ア 対 話 小 集 団 の 話 合 い (3～4名) 小 集 団 の 話 合 い (4～6名) 学 級 会 討 論 ・ ポ ス タ ー セ ッ シ ョ ン ・ パ ネ ル デ ィ ス カ ッ シ ョ ン								

育てたい力

話し合い活動を通して自分の考えを深めることができる力

1 連携のねらい

自分の考えを伝え合い、話し合う活動は授業における「学び合い」には欠かせない。しかし、小学校では学年が上がるにつれて発言に消極的になる児童が増え、中学校でも意見を述べる生徒が固定化する傾向にあり、話し合いが活性化しにくい。そこで9年間の話し合い活動を指導内容系統一覧表にまとめ、「話し合う力」を段階的に向上させることに取り組んだ。

「話し合いの基礎を築く1・2年」「学級会を行う3・4年」「討論を行う5・6・中学1年」「パネルディスカッションなどの発展期の中学2・3年」に分けて重点目標を整理し、「話し合いのために身に付けておきたい力」なども可視化することで、教員が互いの発達過程を知り、発達段階に即した学習を進めることができると考えた。

また、本研究は話し合いを通じて多様なものの見方や考え方に会い、自分の考えを深める力を育成することをねらいとしている。聞く力・話す力・話し合う力を系統的・計画的にスパイラル曲線を描きながら育むことにより、自分の考えを豊かに表現し、人と関わり合い、考えを深め合えることができるようにしたい。

2 具体的な手だて（言語活動の充実に向けて）

（1）聞く活動の重視

低学年から聞く力をしっかり育てることで、友達と自分の意見の共通点や相違点を知り、考えを深めることができるようにする。

（2）話型の提示

話し方のモデルとなる掲示物を貼り意識化を図る。また、学習に応じて新たな話型を提示し、語彙を増やしていくことで、話す力を段階的に伸ばす。

（3）形態の工夫

話し合う人数を学習内容や発達段階に合わせて考慮し、時には、司会や発表者を複数にするなど、児童・生徒が自信をもって話し合い活動に参加できるよう工夫する。

（4）知識・情報収集力の育成

討論などを行うときは、確かな知識・情報があると、それを拠り所として意見が言いやすい。情報収集の仕方を具体的に示し、時間を確保する。

（5）振り返り活動の重視

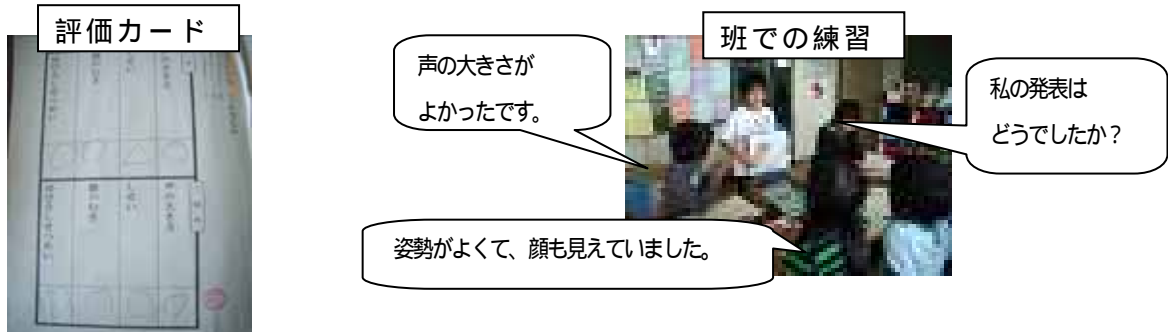
話し合いだけで終わらないように授業の終末には、友達の考えを整理し、自分の考えを再構築する振り返り活動の時間を確保する。

実践授業

1 単元名「あったらいいな、こんなもの」（小学校第2学年）

本単元は児童が考えた「夢を叶える魔法の道具」を発表し合う単元である。班で発表の練習をする際は、発表の評価項目をワークシートで具体的に示した。評価のポイントにそって

話し合うことで自分の発表を見直し、発表の仕方を工夫することができた。クラス全体の発表では、班で練習した成果が出て、自信をもって相手に伝わりやすい発表をすることができた。また、話型の提示により、聞き手は具体的な質問をすることができ、発表者は自分なりの考えで答えることができた。相手に考えを伝える練習は自分の考えを深めることができ、コミュニケーションの力も高めることにつながった。

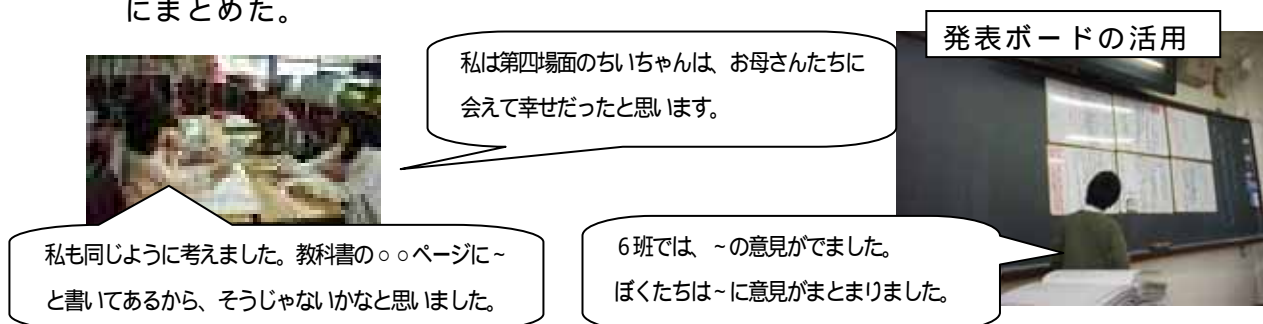


2 単元名「物語の感想をまとめよう～ちいちゃんのかげおくり～」(小学校第3学年)

本単元では、「ちいちゃんのかげおくり」という物語の読み取りを通して、自分と同じ意見も異なる意見も耳を傾けて聞き合い、自分の考えを深めることを目標とした。課題に沿って自分の考えをノートに書いた後、班での話し合いの際に発表ボードを使うなどの工夫をしながら話し合いを進めた。互いに意見を聞き合うことで、友達の考えに共感したり自分の考えを深めたりすることができた。また、話し合いの仕方や発表の仕方も身に付いてきた。

(1) 互いに考えを班の中で発表して、話し合いながら、意見を発表ボードにまとめた。

(2) 話し合ったことを、発表ボードを基にして全体に発表した。



他教科との関連：総合的な学習の時間【ポスターセッション】(中学校第2学年)

調べたことを整理し、分かりやすく伝えるためポスターを共同で作成し、セッション形式で伝え合うこの取組を、職場体験を題材として実践した。国語教科書「ポスターセッション」で学習方法を理解し、職場体験のグループごとにポスターを作成し、学年全体でポスターセッションを行った。グループで発表内容や表現などを振り返った際の感想では、「実際の体験をポスターにして発表することで、緊張はしたが楽しかった」「自分の経験を発表しながら思い出すことができ、皆に共感してもらえうれしかった」など肯定的な意見が多数だった。題材に全員が取り組んだ「職場体験」を設定したことで、発表者・視聴者共に効果的な言語活動の学習ができたと考えられる。

